

## 日本産アリ類生態情報 19. 現存量.

調査地域	生息環境	現存量 (g/m <sup>2</sup> )	出典
<b>林床性アリ群集</b>			
山梨県 朝霧高原	冷温帯草原	11.332	佐伯他(1969)
長野県 霧ヶ峰高原	冷温帯草原	2.231, 0.771, 1.911	斉藤他(1979)
神奈川県 真鶴岬	暖帯照葉樹林	2.930	近藤他(1968a, b)
千葉県 清澄山	温帯常緑樹林 (モミ, ツガ林)	0.193	山岡(1976)
茨城県 那珂町	暖帯陽樹林 (アカマツ林)	0.025	寺山・松本(1987)
茨城県 那珂町	暖帯陽樹林 (アカマツ林)	0.010	寺山・松本(1987)
熊本県 水俣	暖帯照葉樹林 (山腹)	0.225	林田他(1970)
熊本県 水俣	暖帯照葉樹林 (尾根)	1.314	林田他(1970)
<b>樹上性アリ群集</b>			
神奈川県 真鶴岬	暖帯照葉樹林	0.05-0.06	Kondoh(1978)
千葉県 清澄山	暖帯照葉樹林 (二次林)	0.02-1.66	山岡(1978)
熊本県 水俣	暖帯照葉樹林	0.052	Kondoh(1978)
沖縄県 西表島	亜熱帯マングローブ林	0.092	寺山(1989)

### 出典

- 林田和男・近藤正樹・久保田政雄・久保木謙・西山伊和禰・安部琢哉・松崎誠司郎・佐伯博正・須藤高成・吉川研二・立田節子・中野玲子(1970) 水俣の照葉樹林におけるアリ類の生息密度と現存量. JIBP JPTS-SI アリ No. 6, 3-6.
- 斉藤 晋・吉田美奈子・藤田朋子(1979) 大形土壌動物の現存量. 各種生態系における野生動物の現存量に関する研究報告書(環境庁): 123-136.
- Kondoh, M. (1978) A comparison among ant communities in the anthropogenic environment. *Memorabilia Zoologica*, 29: 79-92.
- 近藤正樹(1983) 陸上動物の個体数現存量および生産力測定の研究. 44年度報告書: 18-28.
- 近藤正樹・久保田正雄・進藤正男(1968a) 神奈川県真鶴岬の暖帯林内におけるアリ類の生息密度. JIBP JPTS-SI (国際生物学事業計画日本委員会 陸上群集生産力二次生産-社会性昆虫グループ) アリ No. 2: 1-8.
- 近藤正樹・久保田正雄・進藤正男(1968b) 神奈川県真鶴岬の暖帯林内におけるアリ類の生息密度(増補改訂). JIBP JPTS-SI (国際生物学事業計画日本委員会 陸上群集生産力二次生産-社会性昆虫グループ) アリ No. 3: 1-7, 附表.
- 佐伯博正・坂田敏郎・進藤正男・近藤正樹(1969) 朝霧高原の草地におけるアリ類の生息密度と現存量(第1報). JIBP JPTS-SI (国際生物学事業計画日本委員会 陸上群集生産力二次生産-社会性昆虫グループ) アリ No. 5: 1-3, 附表.
- 寺山 守(1989) 日本におけるマングローブ林のアリ群集. 桐朋学園女子部研究紀要, (3): 1-11.
- 寺山 守・松本忠夫(1987) アカマツ林のアリ群集. 松くい虫被害対策として実施される特別防除が自然生態系に与える

- 影響評価に関する研究. -松くい虫等被害に伴うマツ林生態系の攪乱とその動態について- (環境庁), 321-338.
- 山岡寛人(1976) 千葉県房総丘陵清澄山地域のモミ・ツガ林における地中営巣性アリ類の組成および現存量について. 房総丘陵清澄山・高宕山地域の自然とその人為による影響 (房総の自然研究会), (5): 74-77.
- 山岡寛人(1978) 千葉県の樹上営巣性蟻類 蟻相とコロニー構成について・第2報. 千葉生物誌, 27: 114-118.